

第60回 県政に関する世論調査の結果について

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は令和2年度1回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用

(郵送配付－郵送・オンライン回収)

(5) 調査時期 令和2年11月27日～令和2年12月18日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,568 (52.3%)

3 調査の項目

(1) 県民意識調査

- ①環境と生活について
- ②健康について
- ③福祉について
- ④観光について
- ⑤千葉県の農林水産物について
- ⑥防災に関する取り組みについて
- ⑦地方分権について
- ⑧広報・広聴活動について

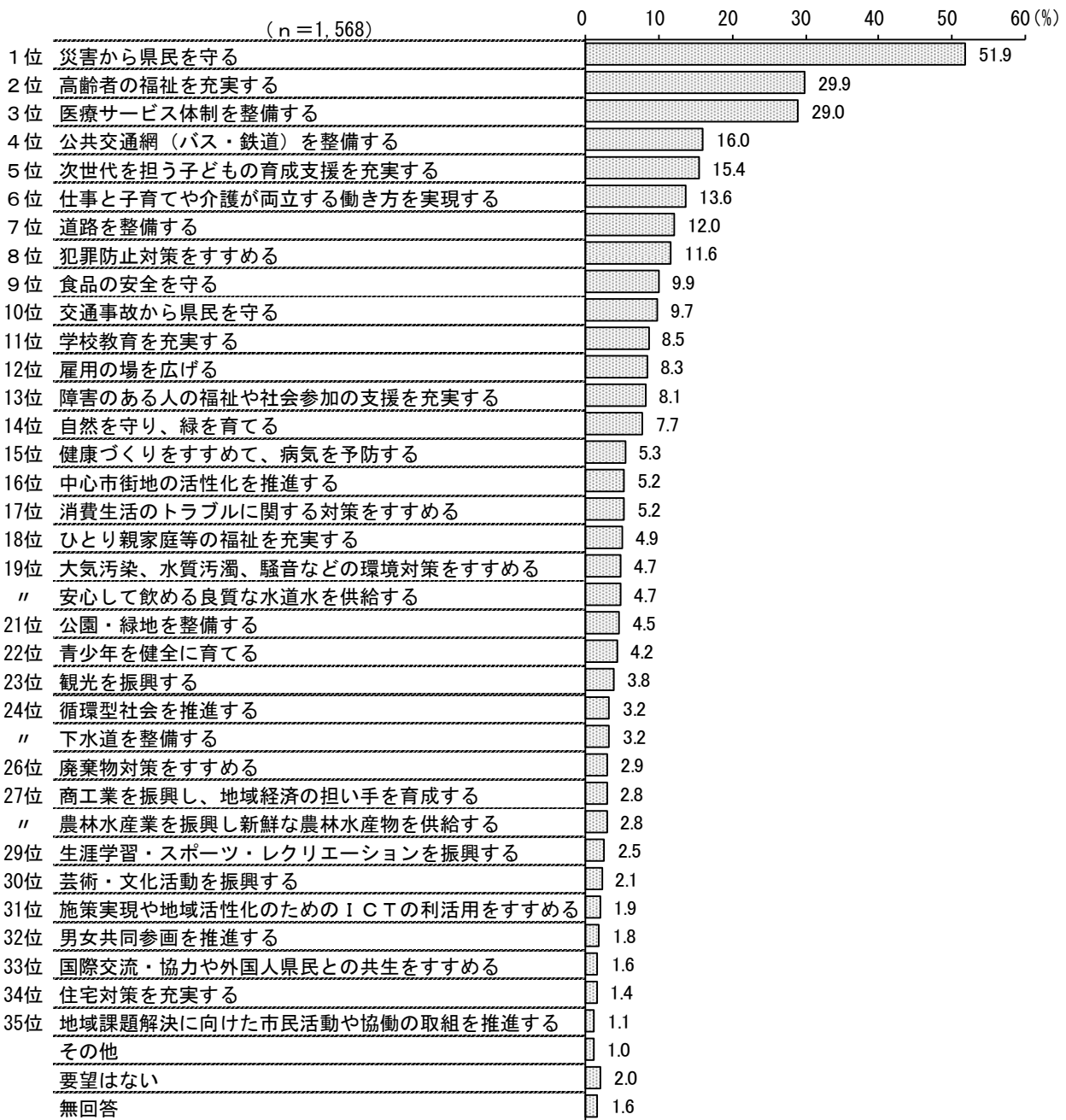
(2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

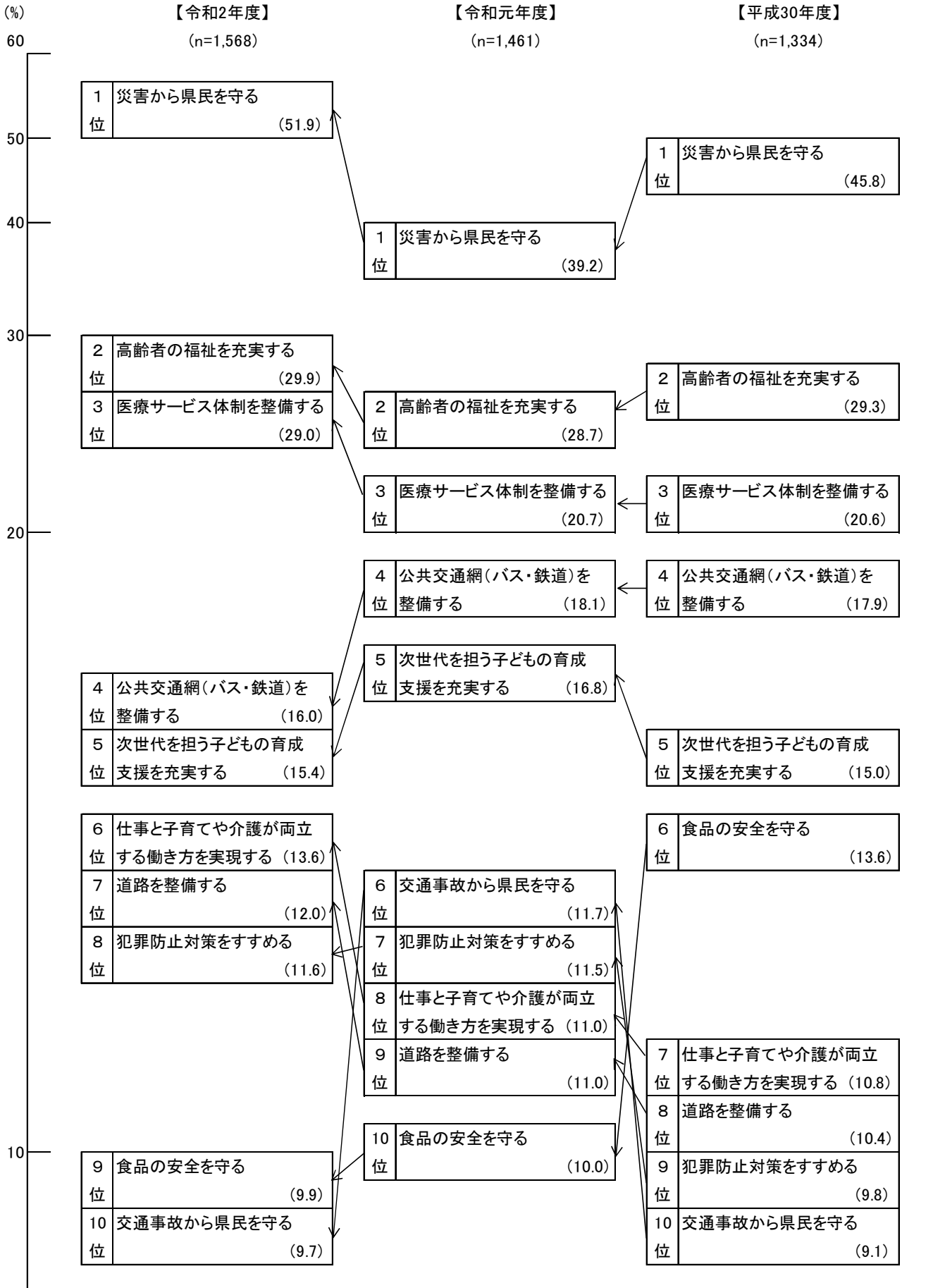
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」は令和元年度（39.2%）に引き続き1位（51.9%）で、12.7ポイント増加している。
2. 2位の「高齢者の福祉を充実する」（29.9%）、3位の「医療サービス体制を整備する」（29.0%）、4位の「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」（16.0%）、5位の「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」（15.4%）は令和元年度と同じ順位となっている。
3. 「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は令和元年度の8位（11.0%）から6位（13.6%）へ、「道路を整備する」は令和元年度の9位（11.0%）から7位（12.0%）へ順位を上げている。
4. 「交通事故から県民を守る」は令和元年度の6位（11.7%）から10位（9.7%）へ順位を下げている。

■ 県政への要望／上位10項目の推移

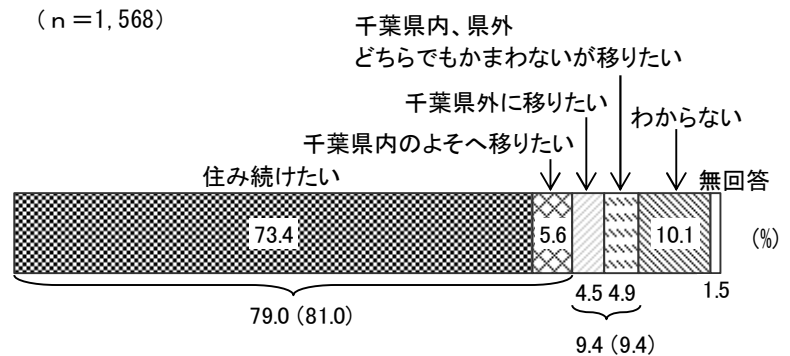


2 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

現在お住まいの地域の今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」(73.4%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.6%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(79.0%)が約8割で高くなっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.5%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.9%)を合わせた『移りたい(計)』(9.4%)が約1割である。

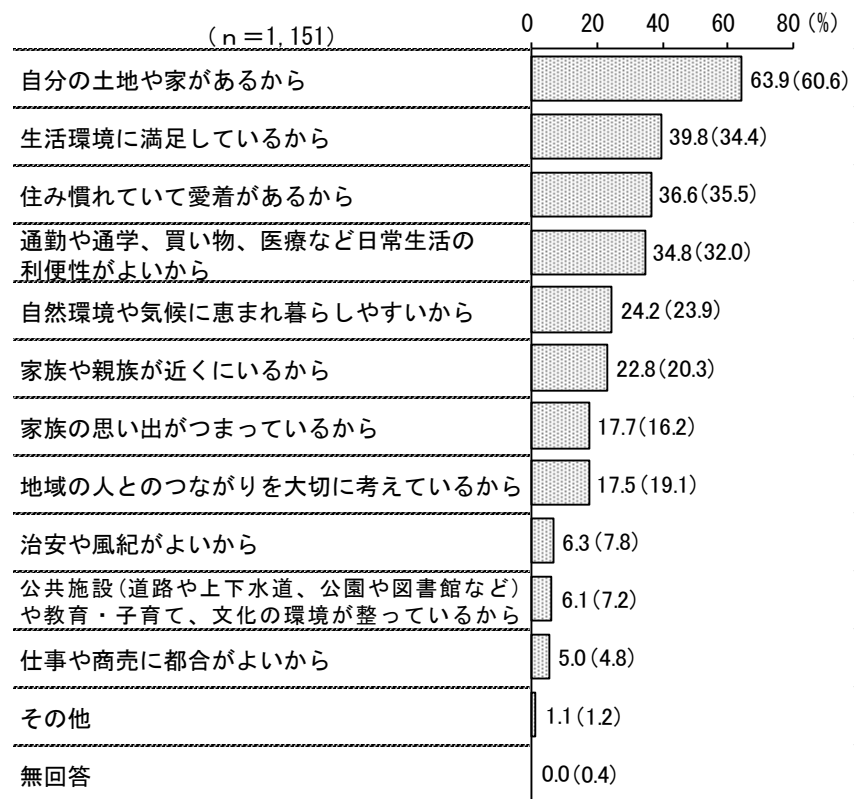


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,151人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(63.9%)が6割台半ばで最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(39.8%)、「住み慣れていて愛着があるから」(36.6%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(34.8%)が続く。

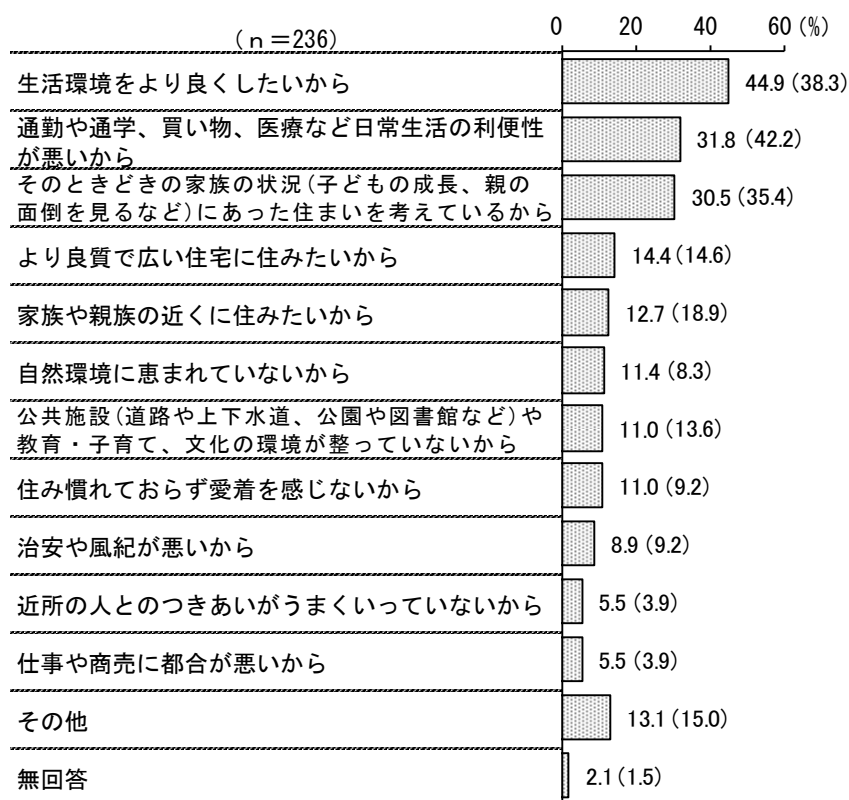


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した236人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(44.9%)が4割台半ばで最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」(31.8%)、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)にあった住まいを考えているから」(30.5%)が続く。

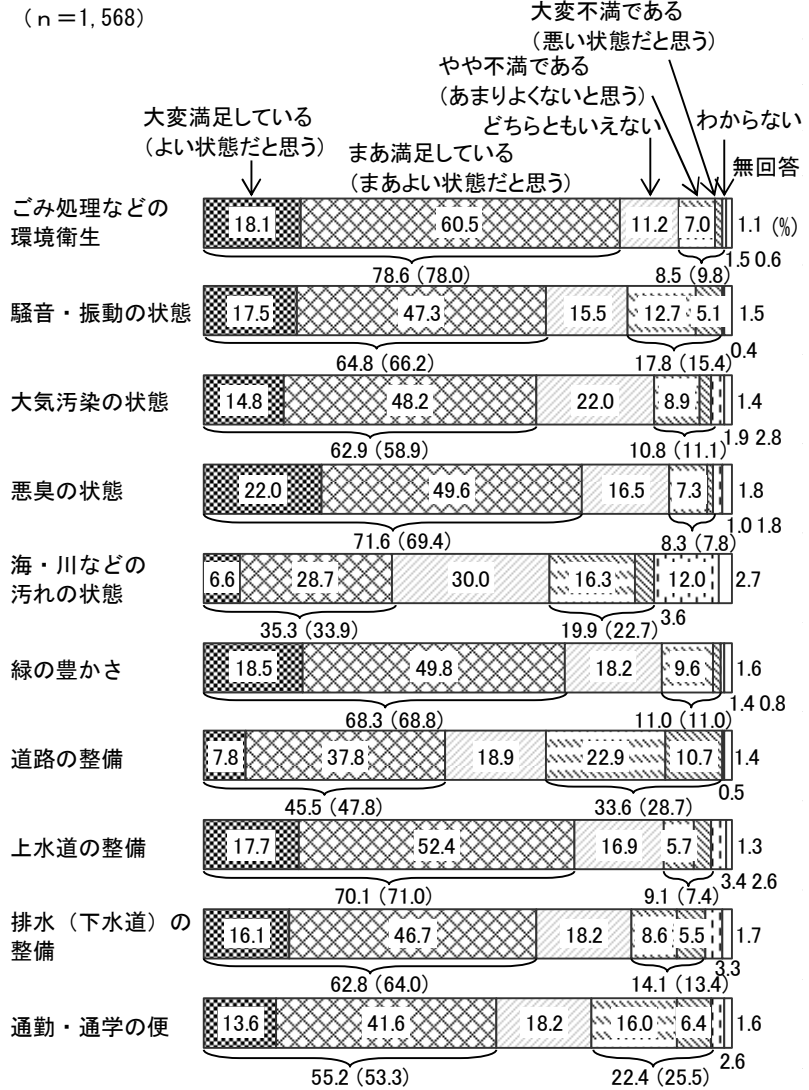


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する10個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している(よい状態だと思う)」と「まあ満足している(まあよい状態だと思う)」を合わせた『満足している(計)』が最も高いのは、「ごみ処理などの環境衛生」(78.6%)で約8割となっており、以下、「悪臭の状態」(71.6%)が7割を超え、「上水道の整備」(70.1%)が7割、「緑の豊かさ」(68.3%)が約7割で続く。

一方、「やや不満である(あまりよくないと思う)」と「大変不満である(悪い状態だと思う)」を合わせた『不満である(計)』が最も高いのは、「道路の整備」(33.6%)で3割台半ばとなっており、以下、「通勤・通学の便」(22.4%)が2割を超え、「海・川などの汚れの状態」(19.9%)が約2割で続く。

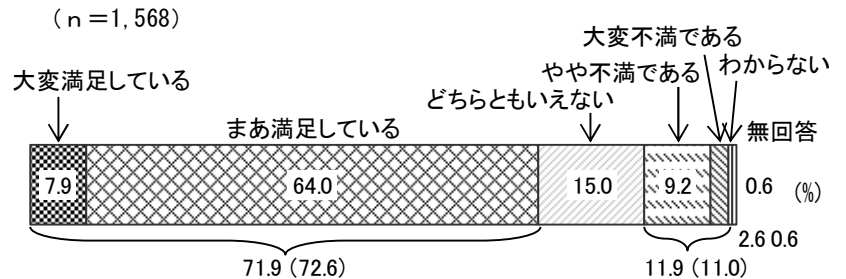


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般(住まい・環境・地域社会)について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(7.9%)と「まあ満足している」(64.0%)を合わせた『満足している(計)』(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「やや不満である」(9.2%)と「大変不満である」(2.6%)を合わせた『不満である(計)』(11.9%)が1割を超えている。

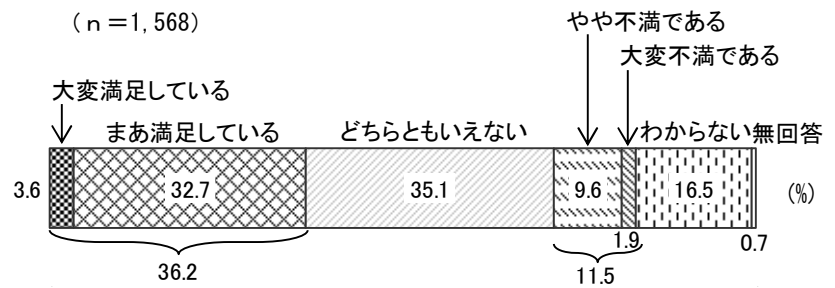


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4) 消費生活全般の満足度

現在の消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(3.6%)と「まあ満足している」(32.7%)を合わせた『満足している(計)』(36.2%)が3割台半ばとなっている。

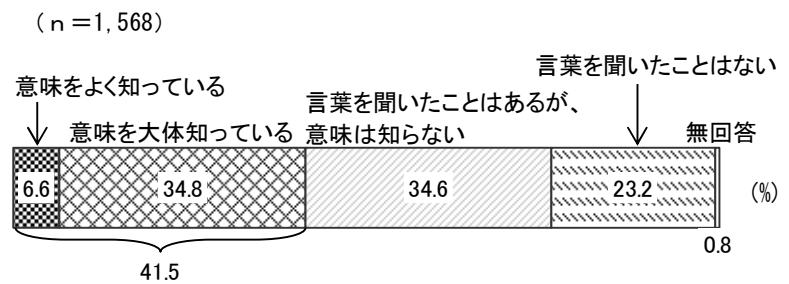
一方、「やや不満である」(9.6%)と「大変不満である」(1.9%)を合わせた『不満である(計)』(11.5%)が1割を超えている。



(5) 「気候変動による影響への適応」の認知度

「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味をよく知っている」(6.6%)と「意味を大体知っている」(34.8%)を合わせた『意味を知っている(計)』(41.5%)が4割を超えている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(34.6%)は3割台半ば、「言葉を聞いたことはない」(23.2%)は2割を超えている。

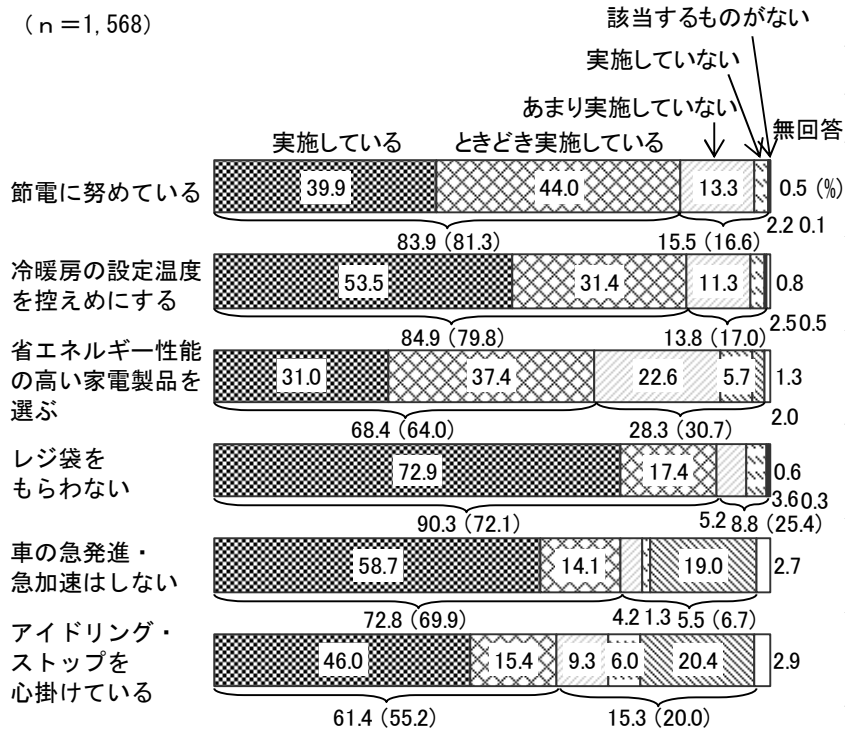


(6) 普段の生活で行っている環境保全の取組

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、「レジ袋をもらわない」(90.3%)が9割以下、「冷暖房の設定温度を控えるにする」(84.9%)と「節電に努めている」(83.9%)で8割台半ば、「車の急発進・急加速はしない」(72.8%)が7割超えて続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、「省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(28.3%)で約3割となっており、以下、「節電に努めている」(15.5%)と「アイドリング・ストップを心掛けている」(15.3%)が1割台半ばで続く。

(n=1,568)



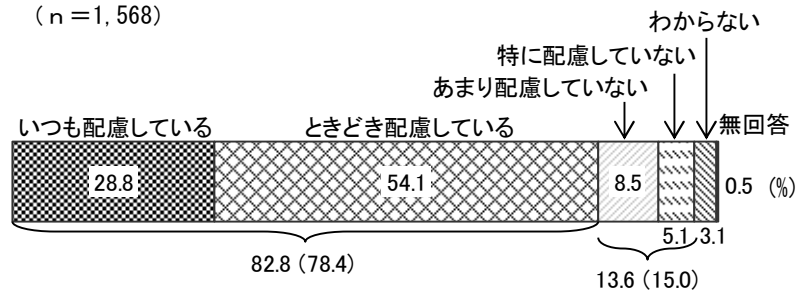
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(7) 環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(28.8%)と「ときどき配慮している」(54.1%)を合わせた『配慮している(計)』(82.8%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「あまり配慮していない」(8.5%)と「特に配慮していない」(5.1%)を合わせた『配慮していない(計)』(13.6%)が1割台半ばとなっている。

(n=1,568)

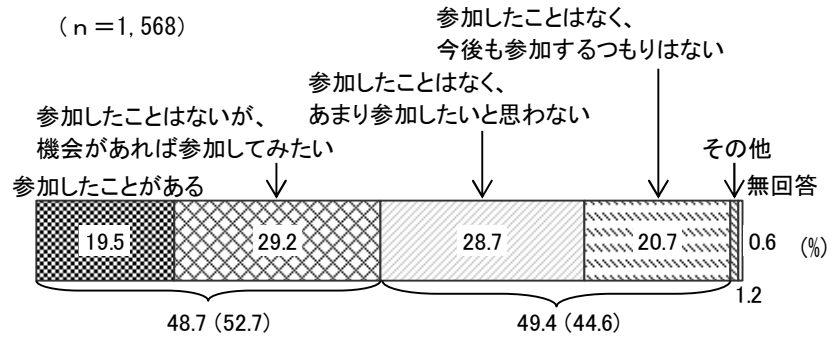


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(8) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(19.5%)が約2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(29.2%)を合わせた『参加意向あり(計)』(48.7%)が約5割となっている。

一方、「参加したことはないが、あまり参加したいと思わない」(28.7%)と「参加したことはないが、今後も参加するつもりはない」(20.7%)を合わせた『参加意向なし(計)』(49.4%)が約5割となっている。

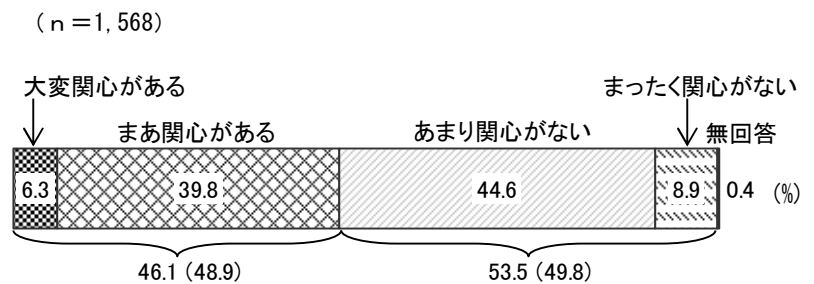


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(9) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.3%)と「まあ関心がある」(39.8%)を合わせた『関心がある(計)』(46.1%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり関心がない」(44.6%)と「まったく関心がない」(8.9%)を合わせた『関心がない(計)』(53.5%)が5割台半ばとなっている。

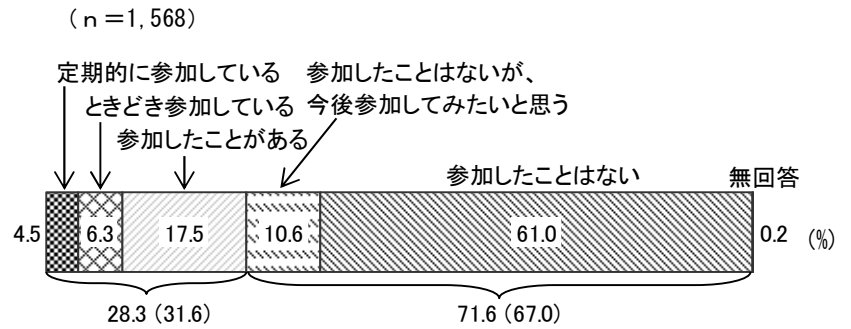


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(10) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(4.5%)、「ときどき参加している」(6.3%)、「参加したことがある」(17.5%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(28.3%)が約3割となっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(10.6%)と「参加したことはない」(61.0%)を合わせた『参加したことはない(計)』(71.6%)が7割を超えて高くなっている。

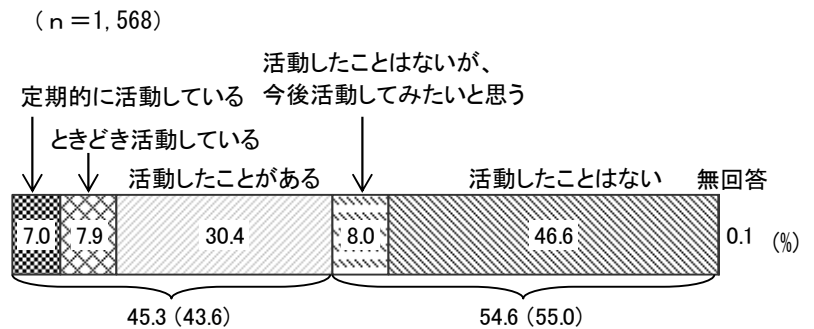


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に参加している」(7.0%)、「ときどき活動している」(7.9%)、「活動したことがある」(30.4%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(45.3%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(8.0%)と「活動したことはない」(46.6%)を合わせた『活動したことはない(計)』(54.6%)が5割台半ばとなっている。

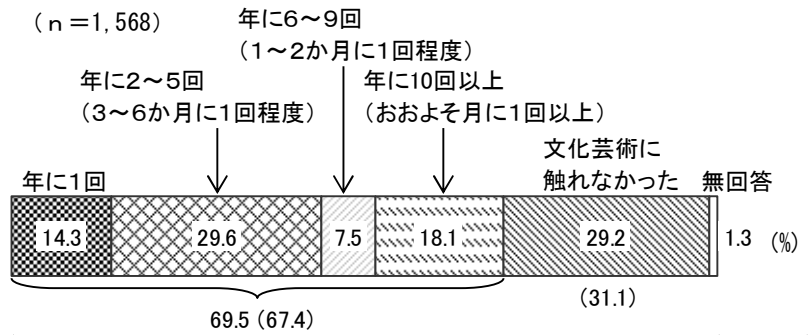


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(12) この1年間の文化芸術に触れた頻度

この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」(14.3%)、「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」(29.6%)、「年に6～9回(1～2か月に1回程度)」(7.5%)、「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」(18.1%)の4つを合わせた『触れたことがある(計)』(69.5%)が約7割で高くなっている。

一方、「文化芸術に触れなかった」(29.2%)が約3割となっている。

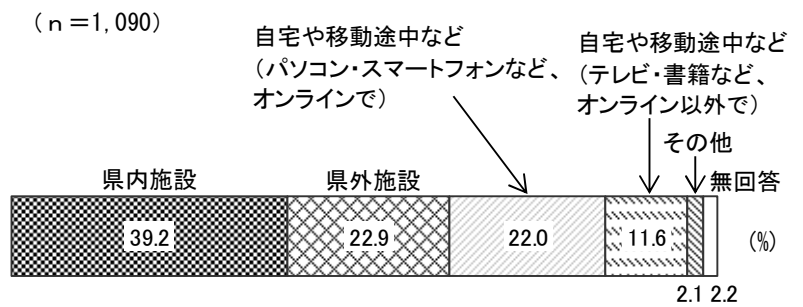


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(※) 今回の調査では、設問から「県内の施設などで」を削除し、「文化芸術」の説明を変更した。

(12-1) 文化芸術に触れた場所

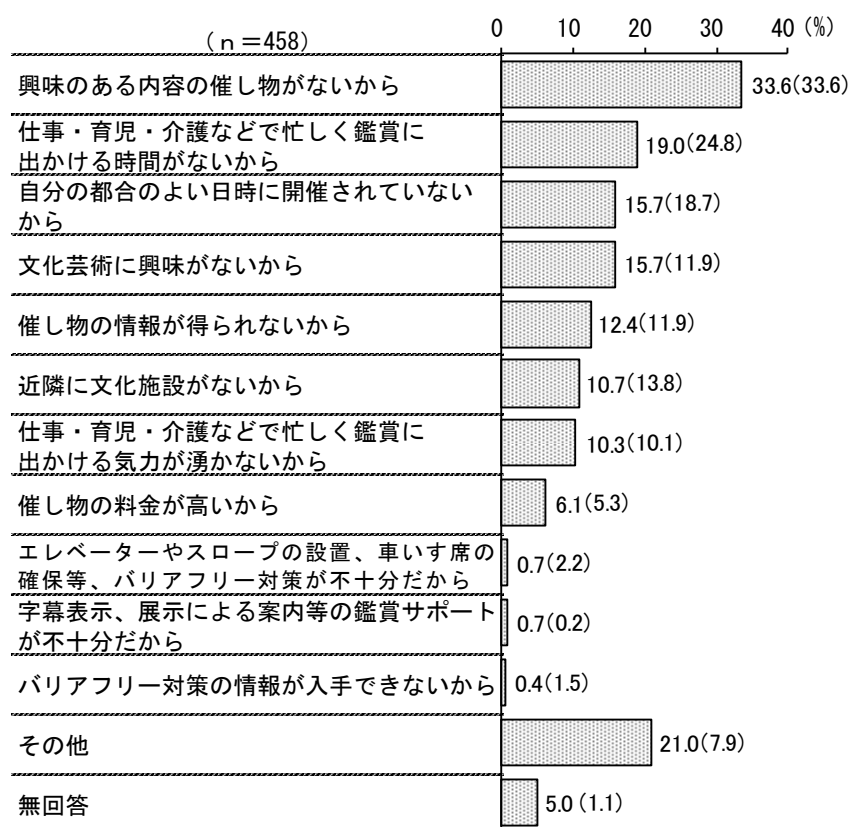
『触れたことがある(計)』と回答した1,090人を対象に、文化芸術に触れた主な場所を聞いたところ、「県内施設」(39.2%)が約4割で最も高く、以下、「県外施設」(22.9%)、「自宅や移動途中など(パソコン・スマートフォンなど、オンラインで)」(22.0%)が続く。



(12-2) 文化芸術に触れなかった理由

(複数回答：いくつでも)

「文化芸術に触れなかった」と回答した458人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」(33.6%)が3割台半ばで最も高く、以下、「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞に出かける時間がないから」(19.0%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」と「文化芸術に興味がないから」(15.7%)が続く。



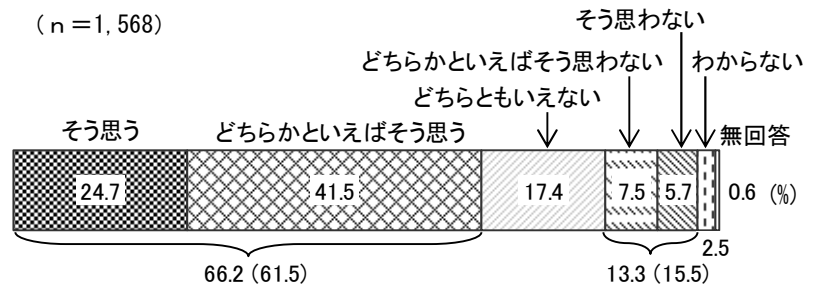
注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(24.7%)と「どちらかといえばそう思う」(41.5%)を合わせた『そう思う(計)』(66.2%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.5%)と「そう思わない」(5.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(13.3%)が1割を超えている。

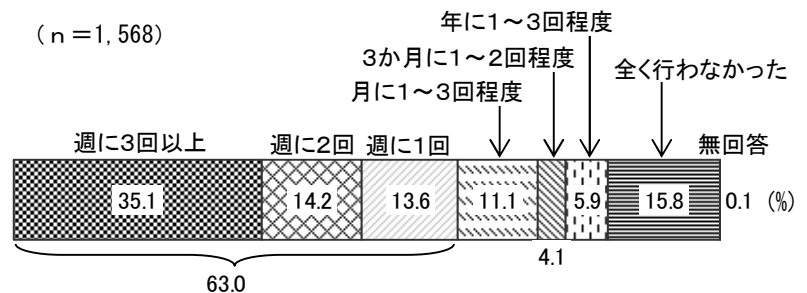


注) 下段の()書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 1年間に行った運動の程度

この1年間にどの程度運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に3回以上」(35.1%)、「週に2回」(14.2%)、「週に1回」(13.6%)の3つを合わせた『週1回以上運動した(計)』(63.0%)が6割を超えている。

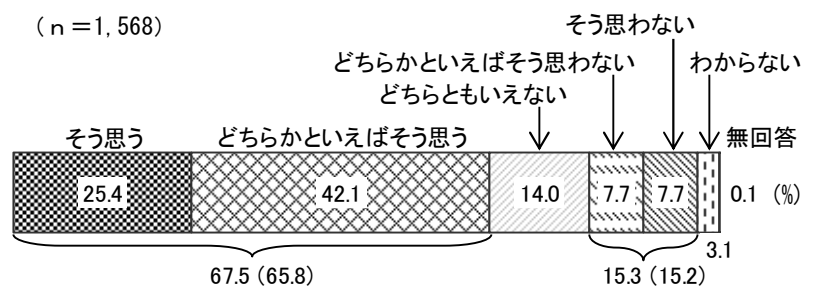
一方、「全く行わなかった」(15.8%)が1割台半ばとなっている。



(3) 安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(25.4%)と「どちらかといえばそう思う」(42.1%)を合わせた『そう思う(計)』(67.5%)が約7割で高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(7.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(15.3%)が1割台半ばとなっている。



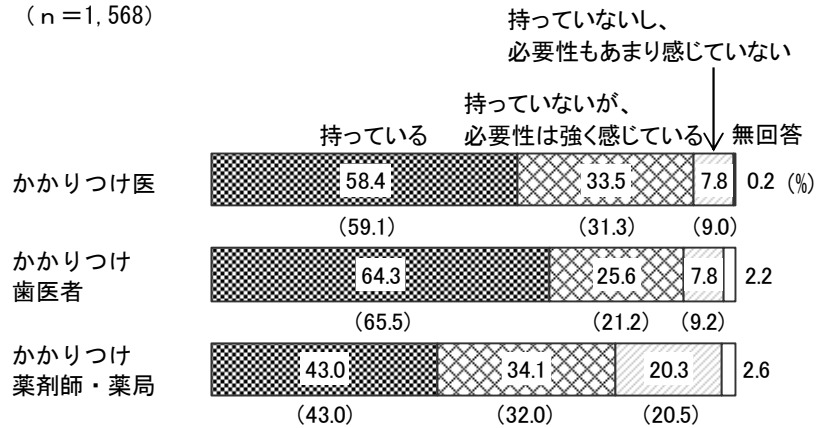
注) 下段の()書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、(n=1,568)
 かかりつけ薬剤師・薬局を持っている
 かどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(64.3%)
 が6割台半ば、〈かかりつけ医〉
 (58.4%)が約6割、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(43.0%)が4割を超えている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(34.1%)と〈かかりつけ医〉(33.5%)が3割台半ばとなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(20.3%)が2割となっている。



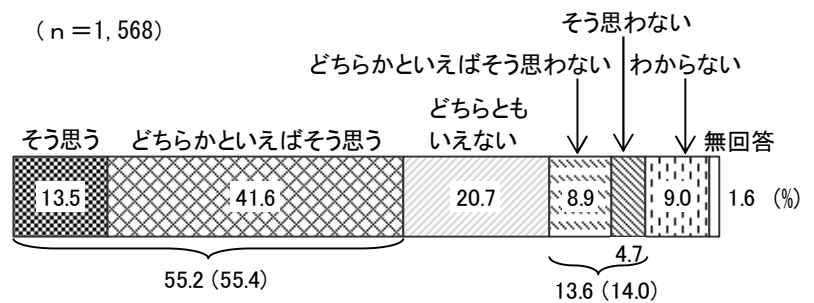
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.5%)と「どちらかといえばそう思う」(41.6%)を合わせた『そう思う(計)』(55.2%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.9%)と「そう思わない」(4.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(13.6%)が1割台半ばとなっている。

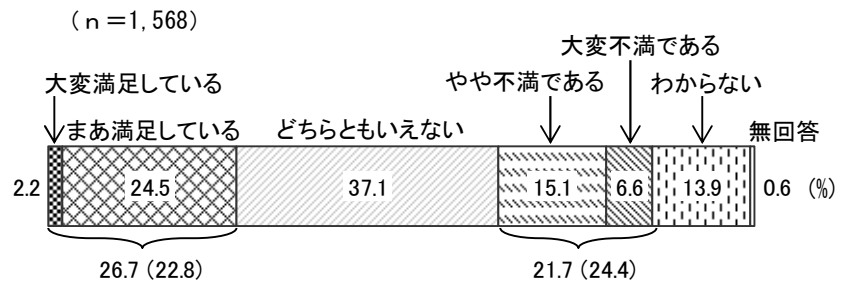


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.2%)と「まあ満足している」(24.5%)を合わせた『満足している(計)』(26.7%)が2割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」(15.1%)と「大変不満である」(6.6%)を合わせた『不満である(計)』(21.7%)が2割を超えている。

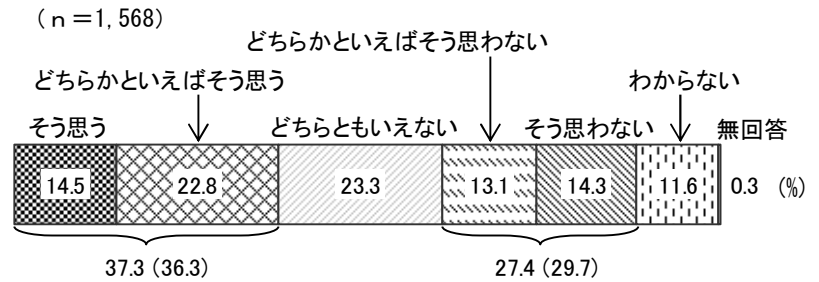


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3) 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.5%)と「どちらかといえばそう思う」(22.8%)を合わせた『そう思う(計)』(37.3%)が約4割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.1%)と「そう思わない」(14.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(27.4%)は約3割となっている。

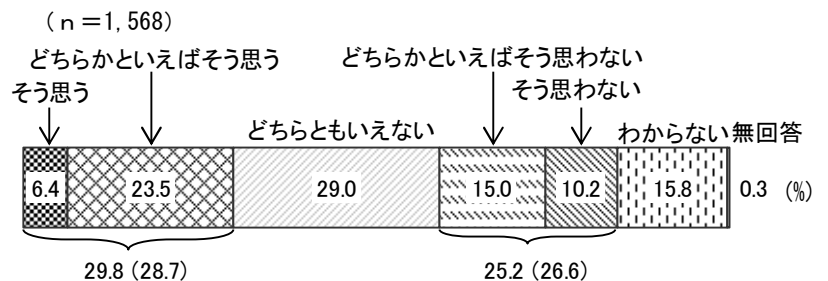


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4) 高齢者の社会参加について

高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.4%)と「どちらかといえばそう思う」(23.5%)を合わせた『そう思う(計)』(29.8%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.0%)と「そう思わない」(10.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(25.2%)が2割台半ばとなっている。

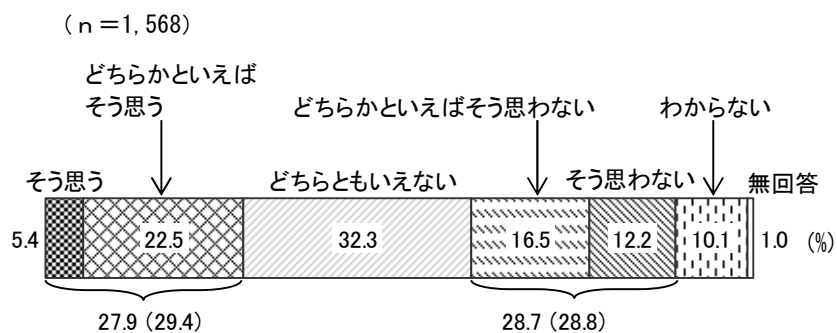


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(5) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.4%)と「どちらかといえばそう思う」(22.5%)を合わせた『そう思う(計)』(27.9%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(16.5%)と「そう思わない」(12.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(28.7%)が約3割となっている。

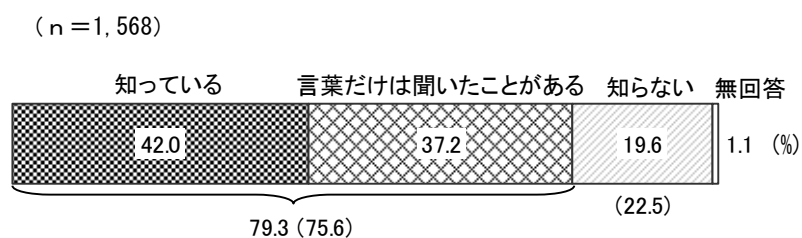


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(6) 「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(42.0%)と「言葉だけは聞いたことがある」(37.2%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(79.3%)が約8割で高くなっている。

一方、「知らない」(19.6%)が約2割となっている。

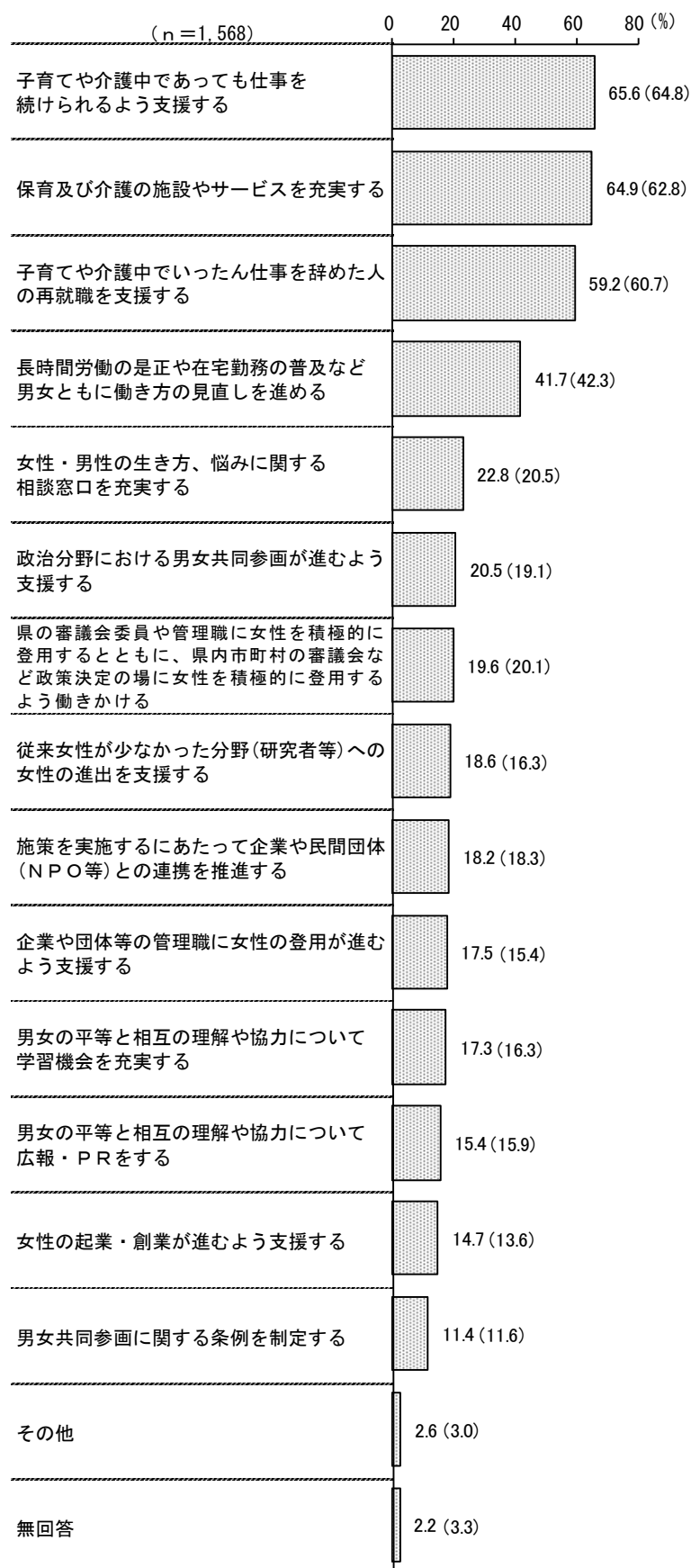


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(7) 男女共同参画社会を実現するための取組

(複数回答：いくつでも)

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(65.6%)が6割台半ばで最も高く、以下、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(64.9%)、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(59.2%)が続く。



注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

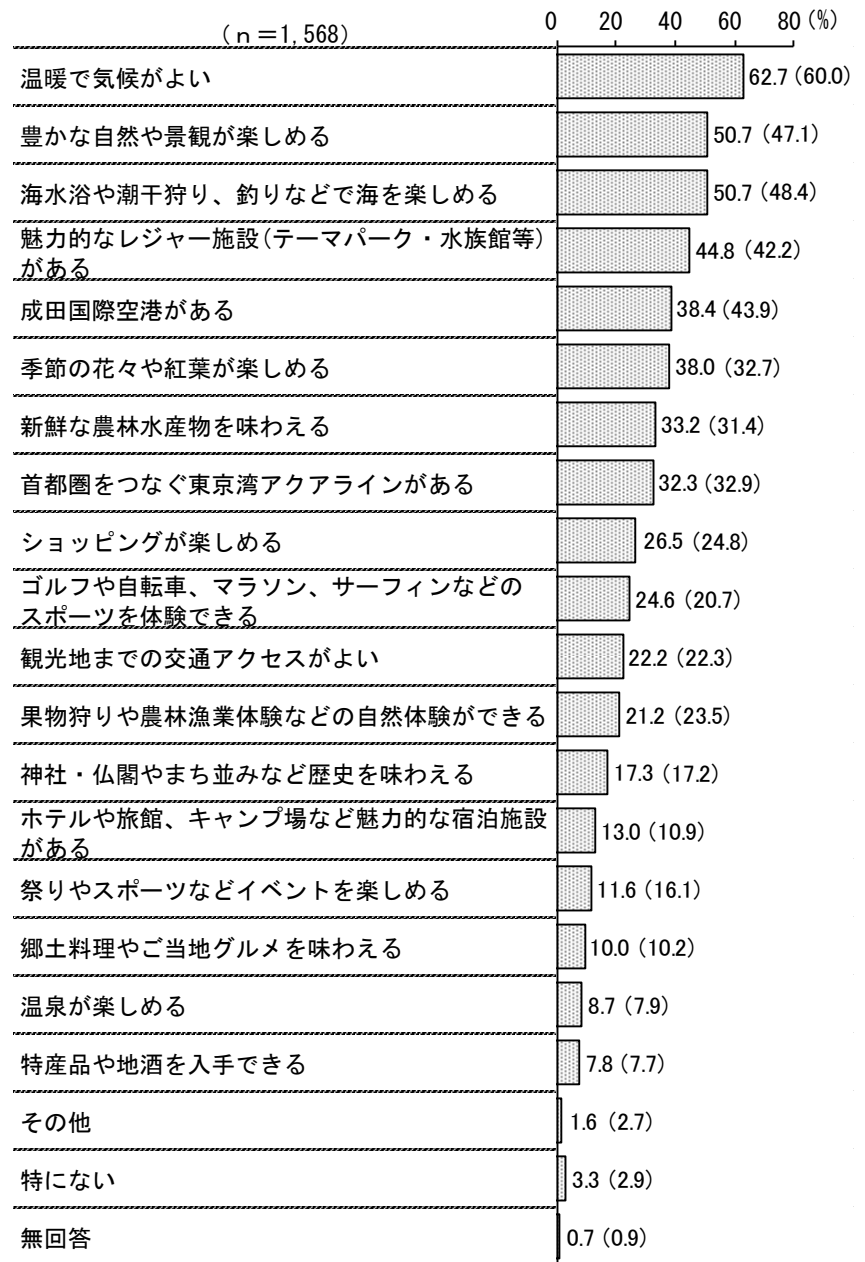
(※) 令和元年度調査では、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答：いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思いか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(62.7%)が6割を超えて最も高く、以下、「豊かな自然や景観が楽しめる」と「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しむ」(50.7%)、「魅力的なレジャー施設(テーマパーク・水族館等)がある」(44.8%)が続く。

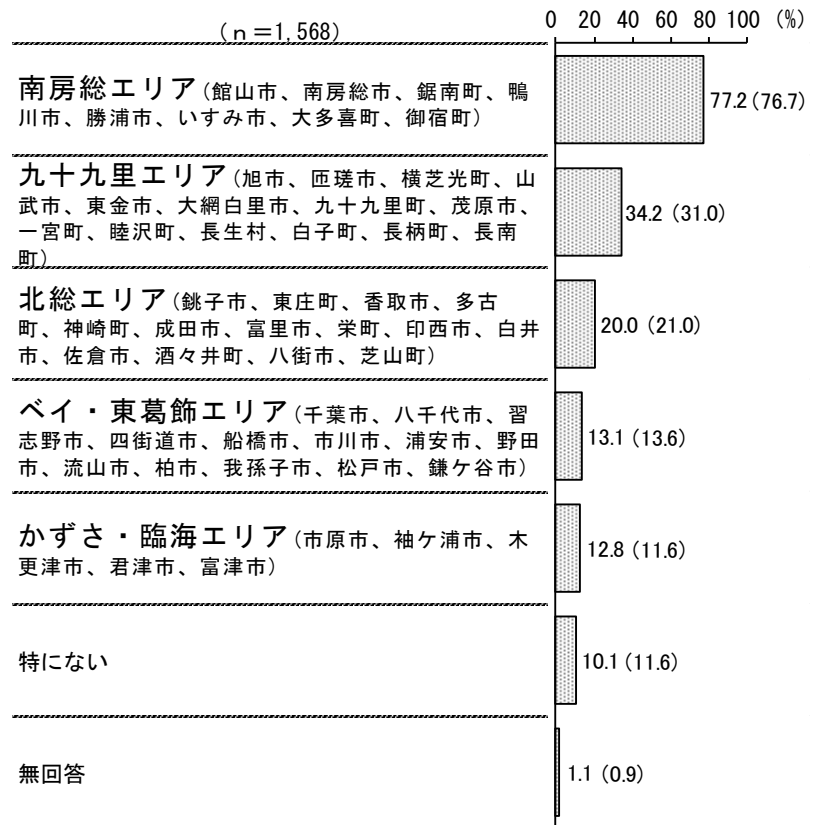


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答：いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(77.2%)が約8割で最も高く、以下、「九十九里エリア」(34.2%)、「北総エリア」(20.0%)、「ベイ・東葛飾エリア」(13.1%)、「かずさ・臨海エリア」(12.8%)が続く。

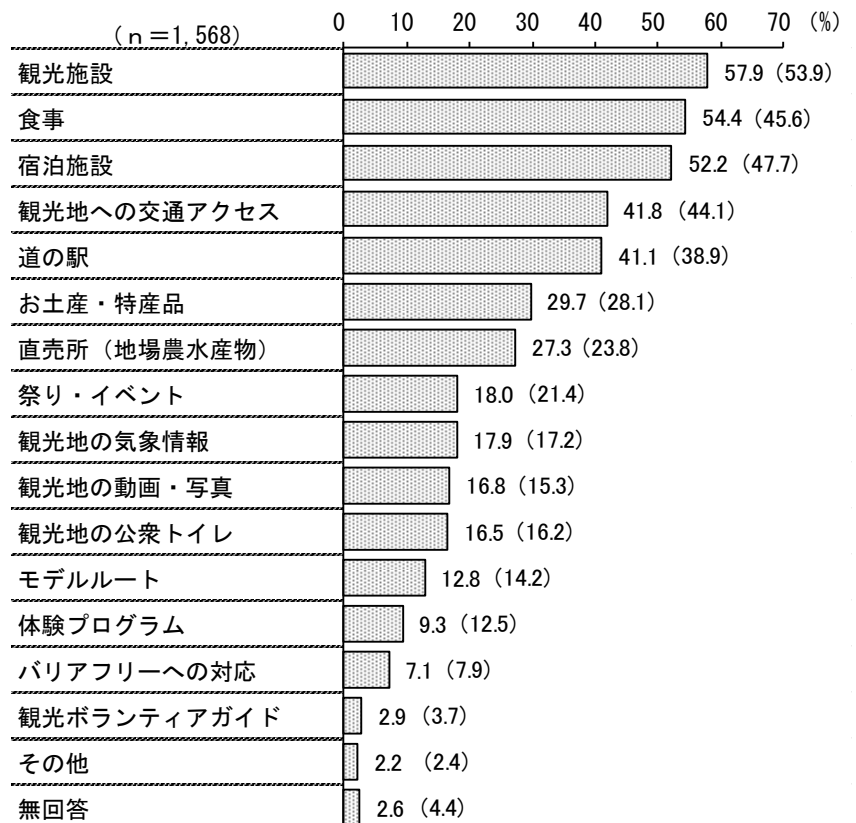


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(57.9%)が約6割で最も高く、以下、「食事」(54.4%)、「宿泊施設」(52.2%)が続く。



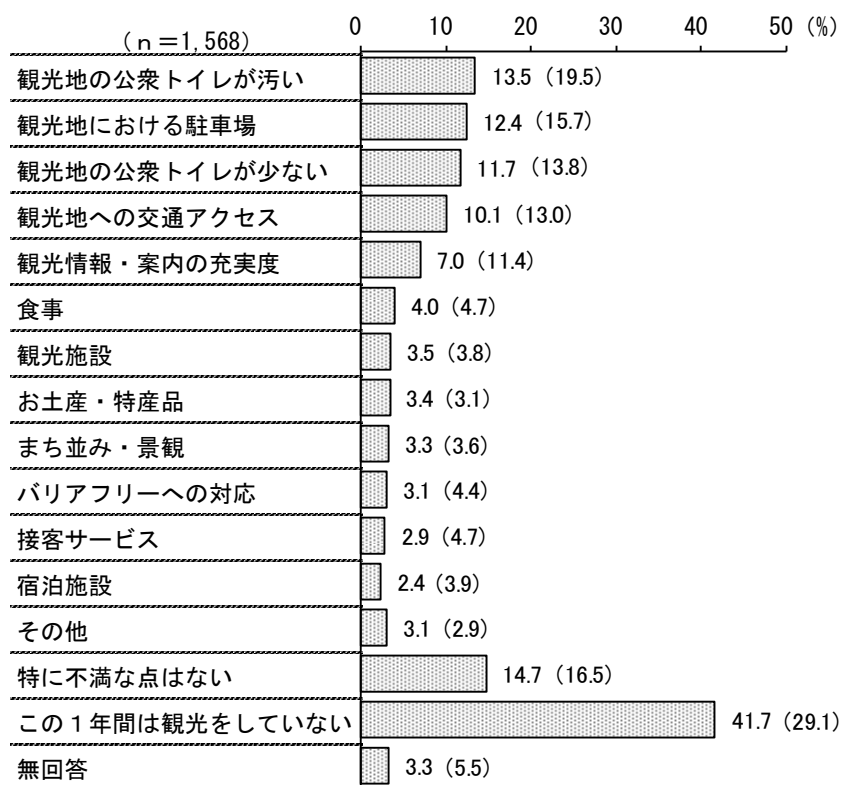
注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4) この1年間に県内を観光した際の不満

(複数回答：いくつでも)

この1年間で県内を観光した際に不満を感じたことを聞いたところ、「観光地の公衆トイレが汚い」(13.5%)が1割台半ばで最も高く、以下、「観光地における駐車場」(12.4%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(11.7%)、「観光地への交通アクセス」(10.1%)が続く。

また、「この1年間は観光をしていない」(41.7%)が4割を超えている。

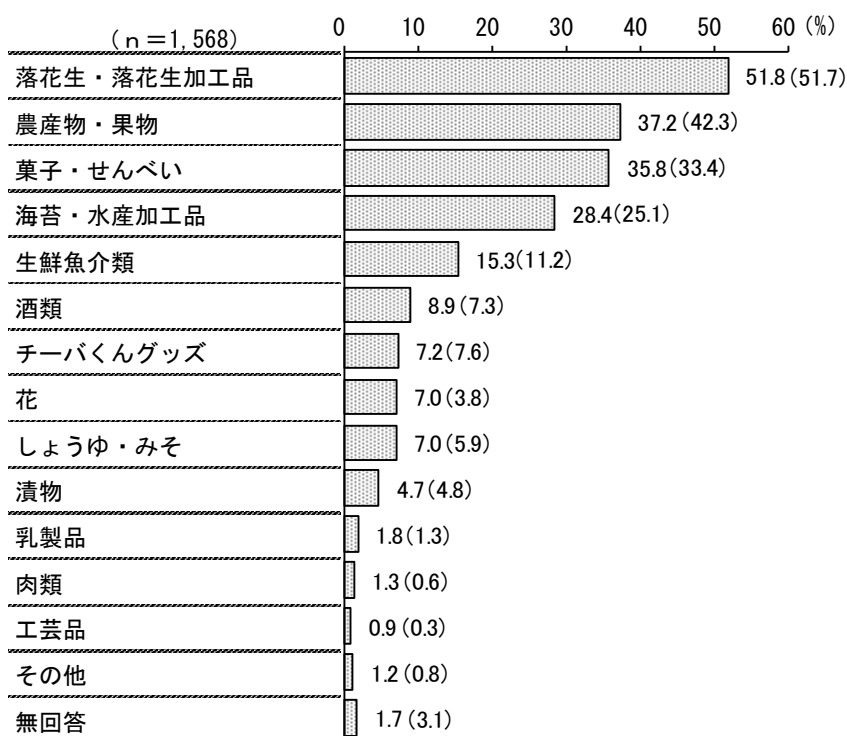


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈るか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(51.8%)が5割を超えて最も高く、以下、「農産物・果物」(37.2%)、「菓子・せんべい」(35.8%)、「海苔・水産加工品」(28.4%)が続く。



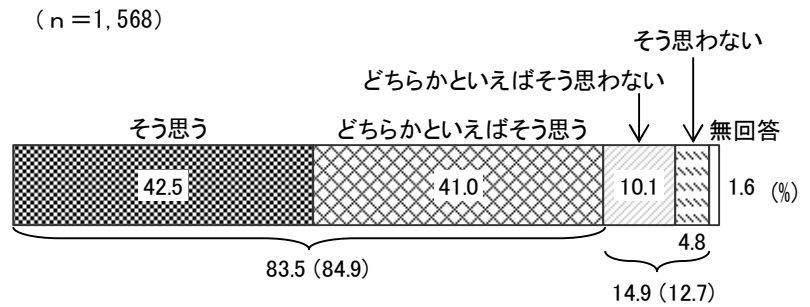
注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

6 千葉県の農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(42.5%)と「どちらかといえばそう思う」(41.0%)を合わせた『そう思う(計)』(83.5%)が8割台半ばで高くなっている。

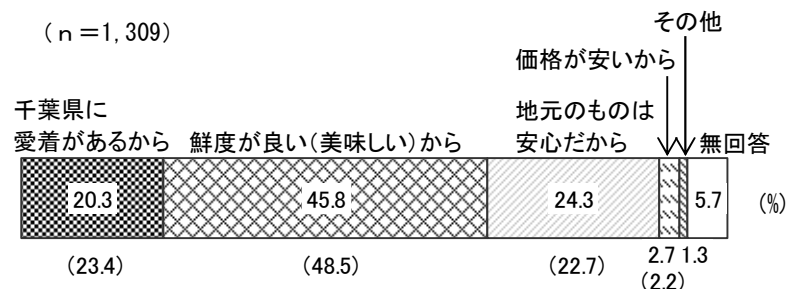
一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.1%)と「そう思わない」(4.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(14.9%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

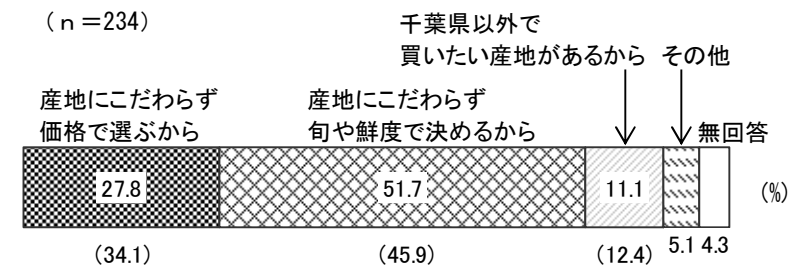
千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,309人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、以下、「地元のもの安心だから」(24.3%)、「千葉県に愛着があるから」(20.3%)、「価格が安いから」(2.7%)が続く。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した234人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(51.7%)が5割を超えて最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(27.8%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(11.1%)が続く。

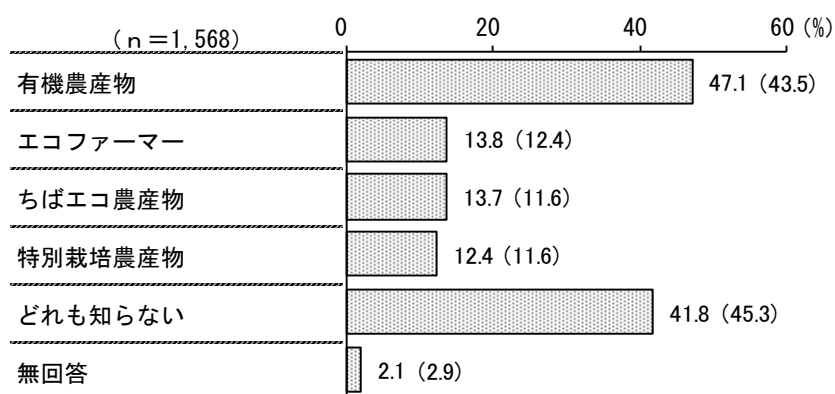


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答：いくつでも)

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(47.1%)が約5割で最も高く、以下、「エコファーマー」(13.8%)、「ちばエコ農産物」(13.7%)、「特別栽培農産物」(12.4%)、「特別栽培農産物」(12.4%)が続く。

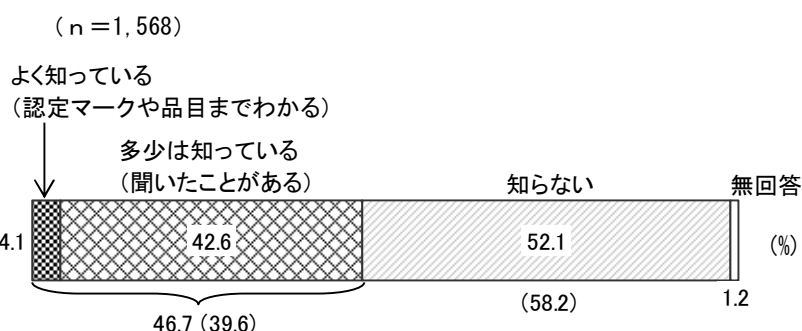


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている(認定マークや品目までわかる)」(4.1%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(42.6%)を合わせた『知っている(計)』(46.7%)が4割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(52.1%)が5割を超えている。



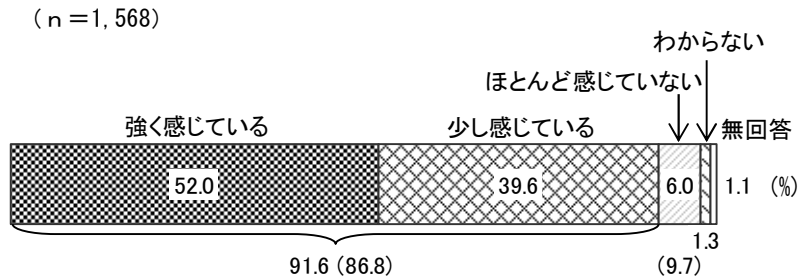
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(52.0%)と「少し感じている」(39.6%)を合わせた『感じている(計)』(91.6%)が9割を超えている。

一方、「ほとんど感じていない」(6.0%)が1割未満となっている。



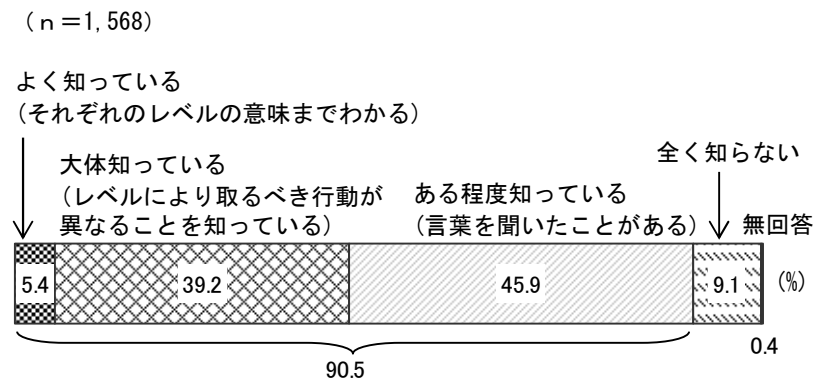
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法の認知度

水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取りべき行動についてを知っているか聞いたところ、「よく知っている(それぞれのレベルの意味までわかる)」

(5.4%)と「大体知っている(レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)」(39.2%)、「ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)」(45.9%)の3つを合わせた『知っている(計)』(90.5%)が9割となっている。

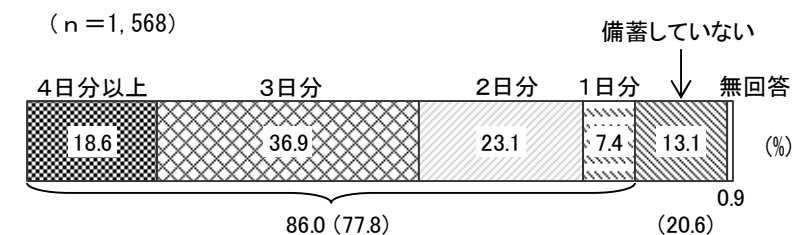
一方、「全く知らない」(9.1%)が約1割となっている。



(3) 飲料水や食料の備蓄状況

飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」(18.6%)、「3日分」(36.9%)、「2日分」(23.1%)、「1日分」(7.4%)の4つを合わせた『備蓄している(計)』(86.0%)が8割台半ばで高くなっている。

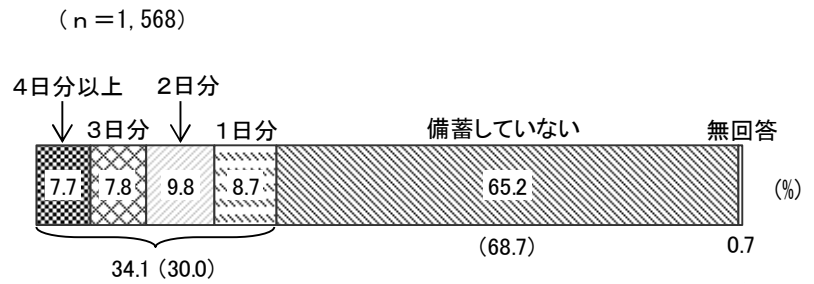
一方、「備蓄していない」(13.1%)が1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況

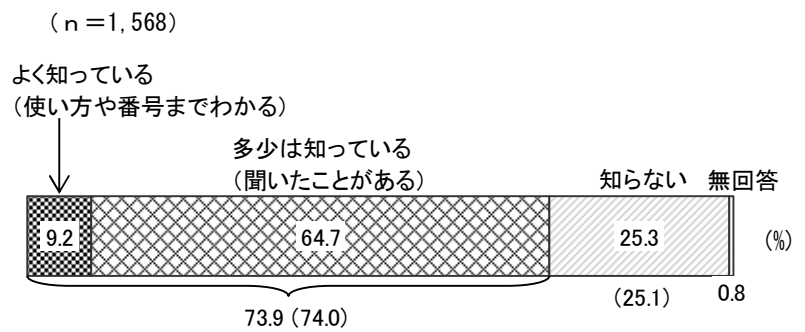
災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（7.7%）、「3日分」（7.8%）、「2日分」（9.8%）、「1日分」（8.7%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（34.1%）が3割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」（65.2%）が6割台半ばとなっている。



注) 下段の（ ）書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(5) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」（9.2%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（64.7%）を合わせた『知っている（計）』（73.9%）が7割台半ばで高くなっている。一方、「知らない」（25.3%）が2割台半ばとなっている。

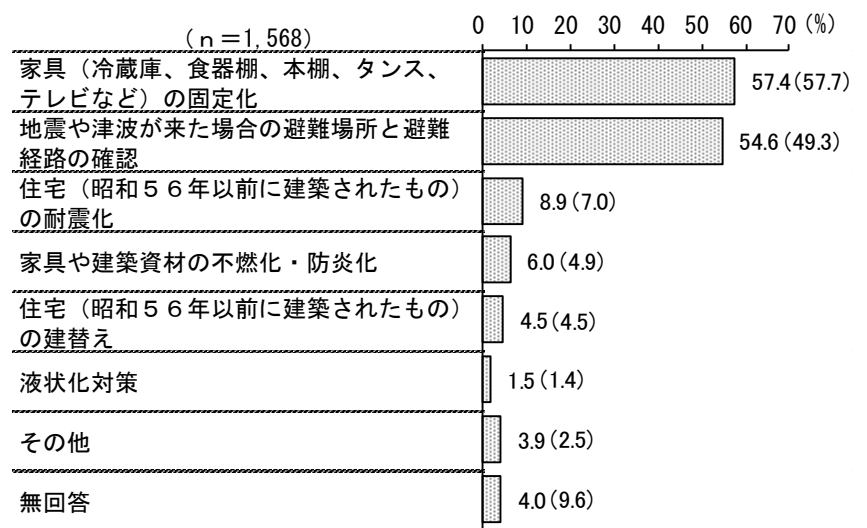


注) 下段の（ ）書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(6) 地震の被害を防ぐための対策

（複数回答：いくつでも）

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（57.4%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」（54.6%）、「家具や建築資材の不燃化・防災化」（6.0%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（8.9%）が続く。



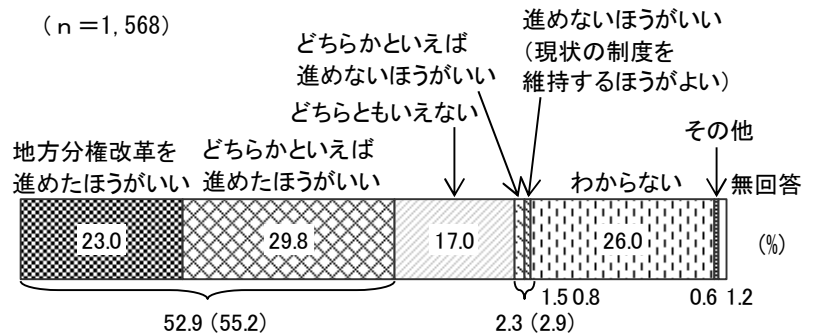
注)（ ）書きは、令和元年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権改革を進めることについて

地方分権改革を進めることについて聞いたところ、「地方分権改革を進めたほうがよい」(23.0%)と「どちらかといえば進めたほうがよい」(29.8%)を合わせた『進めたほうがよい(計)』(52.9%)が5割を超えて高くなっている。

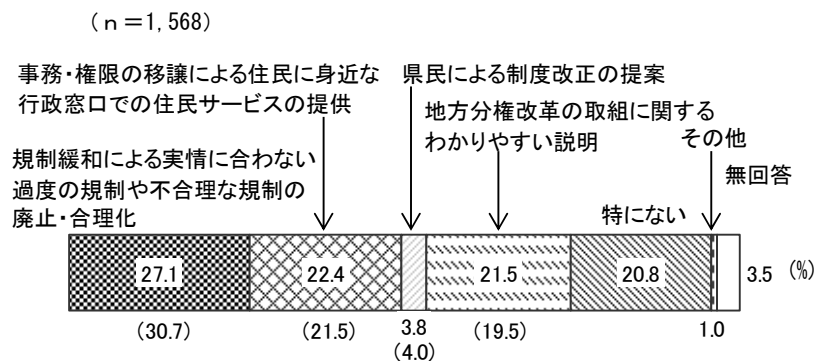
一方、「どちらかといえば進めないほうがよい」(1.5%)と「進めないほうがよい(現状の制度を維持するほうがよい)」(0.8%)を合わせた『進めないほうがよい(計)』(2.3%)はわずかとなっている。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 地方分権改革で期待する主な効果

県が進める地方分権改革の取組について期待する効果を聞いたところ、「規制緩和による実情に合わない過度の規制や不合理な規制の廃止・合理化」(27.1%)が約3割で最も高く、以下、「事務・権限の移譲による住民に身近な行政窓口での住民サービスの提供」(22.4%)、「地方分権改革の取組に関するわかりやすい説明」(21.5%)が続く。



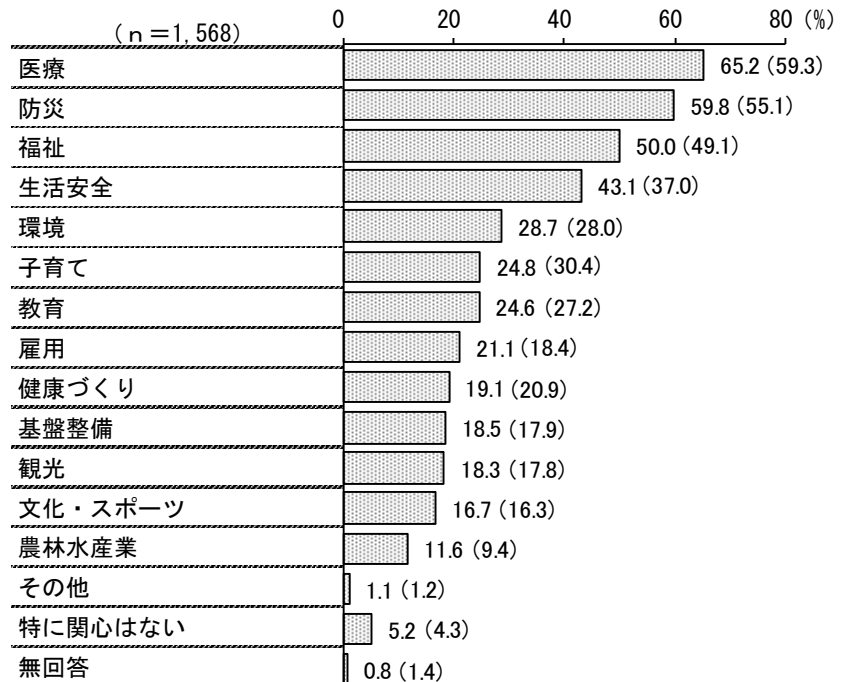
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

9 広報・広聴活動について

(1) 関心のある県政分野

(複数回答：いくつでも)

関心のある県の施策や政策の分野を聞いたところ、「医療」(65.2%)が6割台半ばで最も高く、以下、「防災」(59.8%)、「福祉」(50.0%)、「生活安全」(43.1%)が続く。



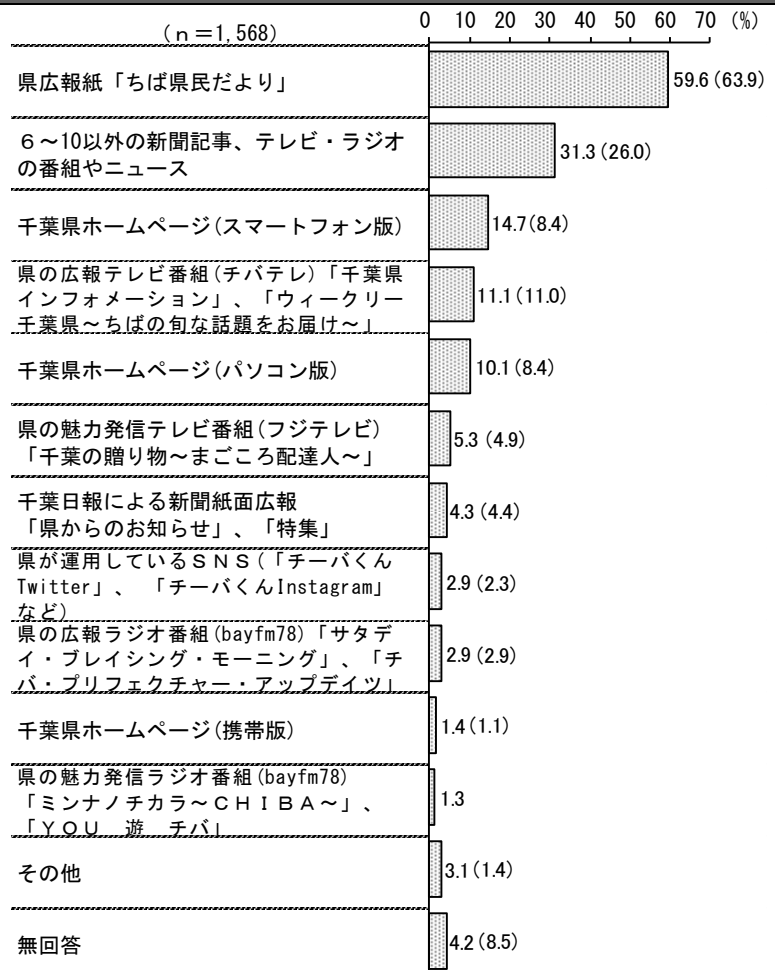
注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(59.6%)が約6割で最も高く、以下、「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(31.3%)、「千葉県ホームページ(スマートフォン版)」(14.7%)が続く。

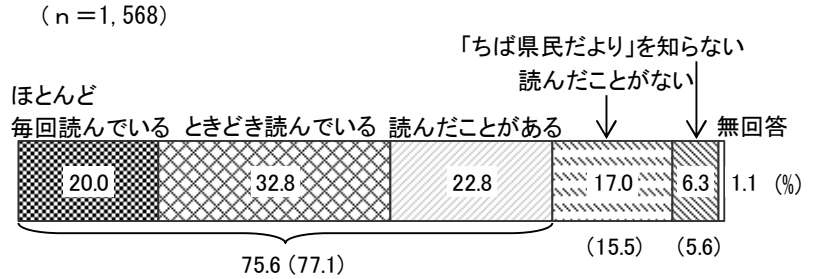
(※)「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、6～10とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデー・ブレイジング・モーニング』、『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組(bayfm78)『ミンナノチカラ～CHIBA～』、『YOU 遊 チバ』」を指す。



注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(20.0%)、「ときどき読んでいる」(32.8%)、「読んだことがある」(22.8%)の3つを合わせた『読んだことがある(計)』(75.6%)が7割台半ばとなっている。



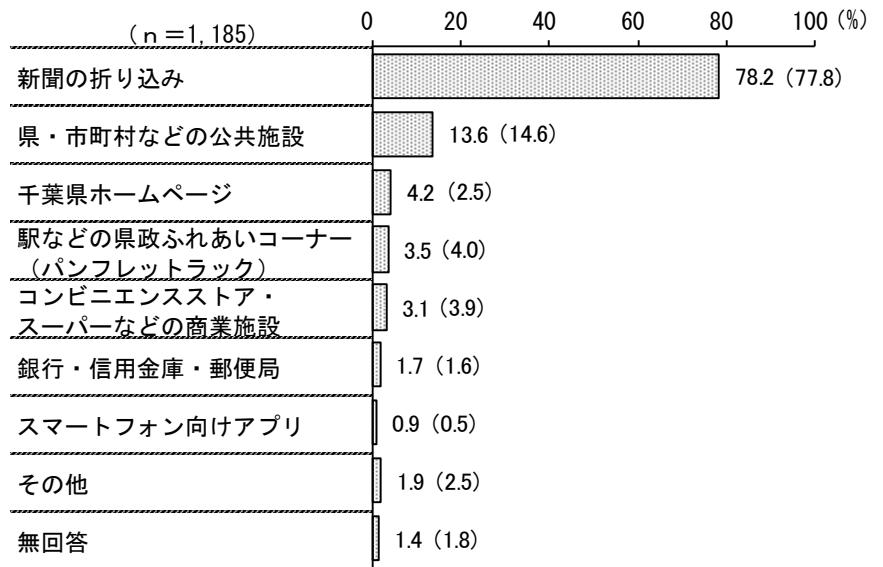
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

一方、「読んだことがない」(17.0%)が約2割、『「ちば県民だより」を知らない』(6.3%)が1割未満となっている。

(3-1) 「ちば県民だより」の入手場所について

(複数回答：いくつでも)

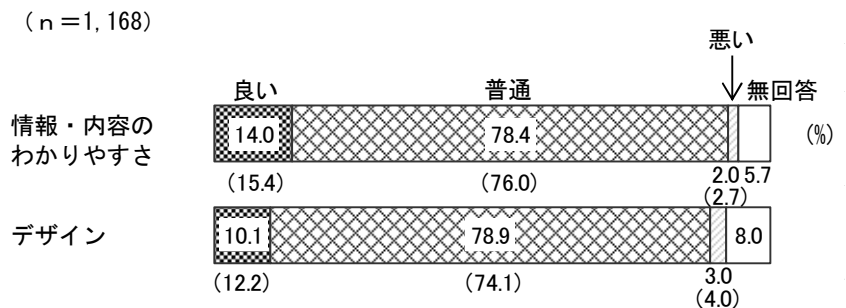
県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「読んだことがある」と回答した1,185人を対象に、「ちば県民だより」をどこで入手しているか聞いたところ、「新聞の折り込み」(78.2%)が約8割で最も高く、以下、「県・市町村などの公共施設」(13.6%)、「千葉県ホームページ」(4.2%)が続く。



注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3-2) 「ちば県民だより」の内容について

県広報紙「ちば県民だより」の入手場所を回答した1,168人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、〈情報・内容のわかりやすさ〉の「良い」(14.0%)が1割台半ばで、「普通」(78.4%)が約8割となっている。



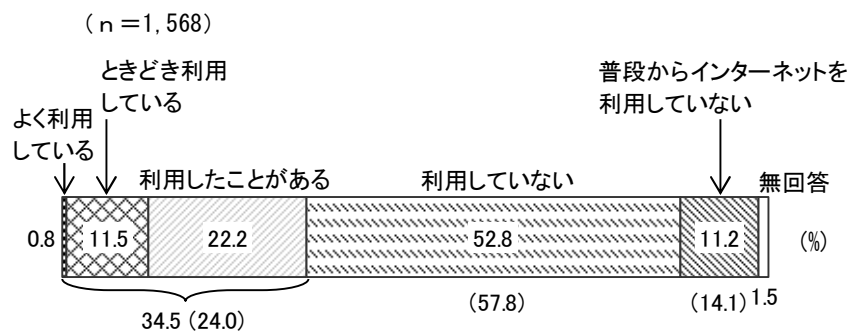
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

また、〈デザイン〉の「良い」(10.1%)が1割、「普通」(78.9%)が約8割となっている。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.8%)、「ときどき利用している」(11.5%)、「利用したことがある」(22.2%)の3つを合わせた『利用したことがある(計)』(34.5%)が3割台半ばとなっている。

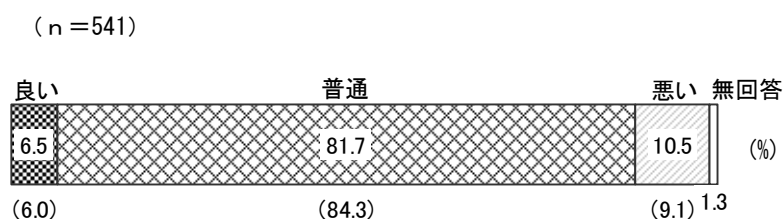
一方、「利用していない」(52.8%)が5割を超え、「普段からインターネットを利用していない」(11.2%)が1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4-1) 千葉県ホームページの見やすさ・使いやすさ

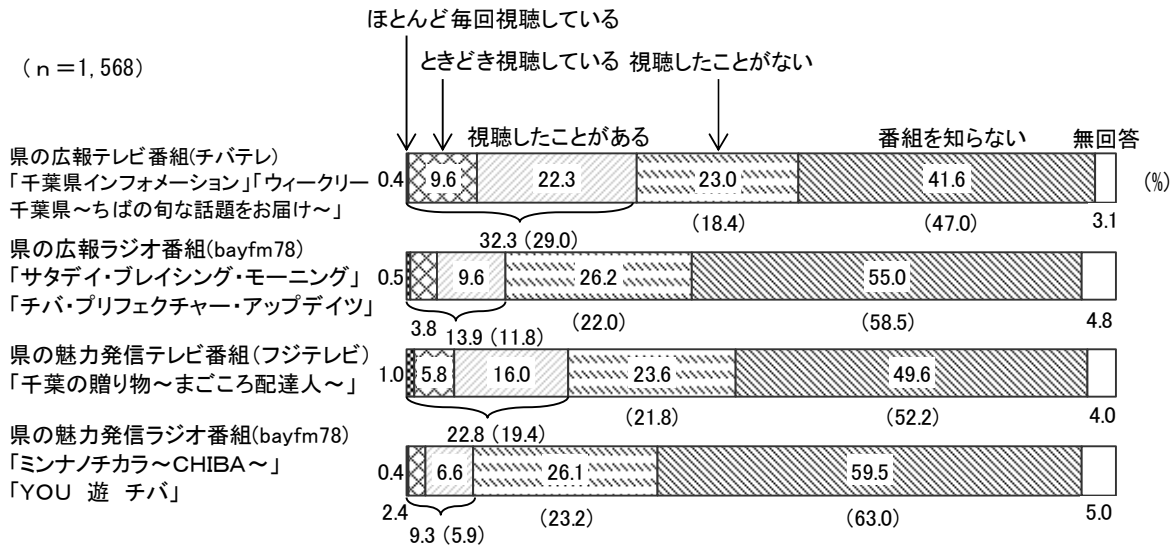
千葉県ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」、「利用したことがある」と回答した541人を対象に、千葉県ホームページの全体構成の見やすさ・使いやすさについて聞いたところ、「良い」(6.5%)が1割未満で、「普通」(81.7%)が8割を超えている。



注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報・魅力発信番組の視聴状況

県の4つの広報番組の視聴状況を聞いたところ、「ほとんど毎回視聴している」、「ときどき視聴している」、「視聴したことがある」の3つを合わせた『視聴したことがある(計)』が最も高いのは、「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県〜ちばの旬な話題をお届け〜』(32.3%)で3割を超えており、以下、「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物〜まごころ配達人〜』(22.8%)が2割を超え、「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデー・ブレイシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』(13.9%)が1割台半ばで続く。

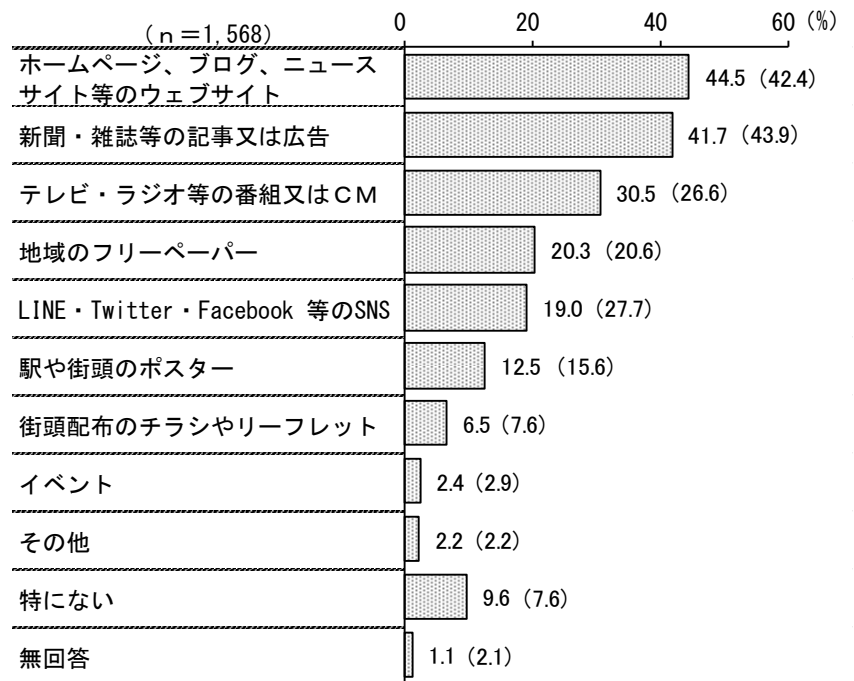


注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(6) 情報の入手媒体

(複数回答: いくつでも)

観光や食事、レジャーなどをする上で、どのような媒体を通じて情報収集をしているか聞いたところ、「ホームページ、ブログ、ニュースサイト等のウェブサイト」(44.5%)が4割台半ばで最も高く、以下、「新聞・雑誌等の記事又は広告」(41.7%)、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(30.5%)、「地域のフリーペーパー」(20.3%)が続く。

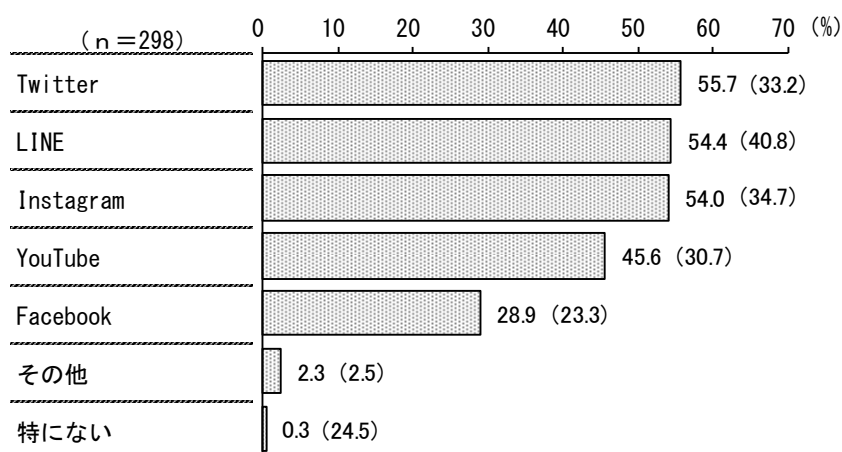


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(6-1) SNSの種類

(複数回答：いくつでも)

情報の入手媒体で「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」と回答した298人を対象に、利用しているSNSの種類を聞いたところ、「Twitter」(55.7%)が5割台半ばで最も高く、以下、「LINE」(54.4%)、「Instagram」(54.0%)、「YouTube」(45.6%)が続く。

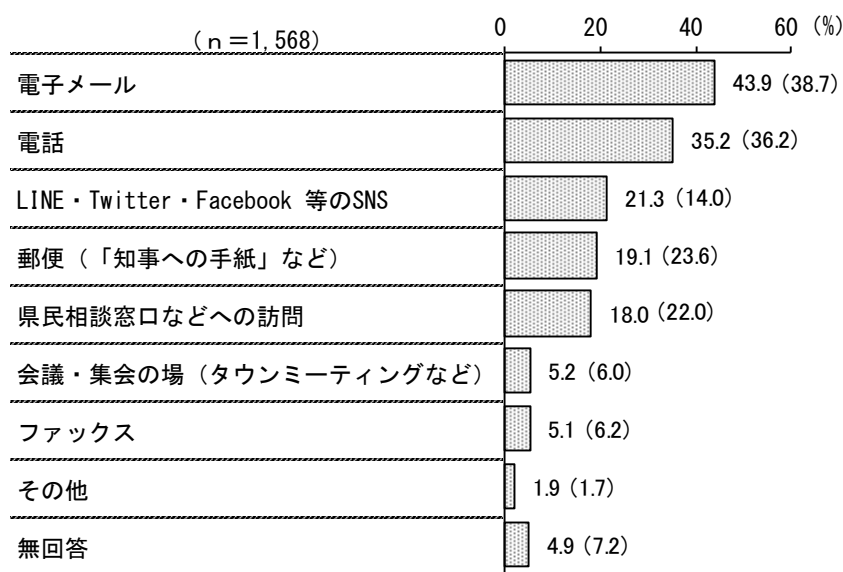


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(7) 県政への意見を述べる方法

(複数回答：3つまで)

県に対して意見(要望や相談、苦情など)を述べる場合、どのような方法で意見を述べたいか3つまで選んでもらったところ、「電子メール」(43.9%)が4割台半ばで最も高く、以下、「電話」(35.2%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(21.3%)が続く。



注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、229人から延べ294件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計35項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■世論調査について

○世論調査の結果の活用例を、もっと広報してください。（男性、50代、葛南地域）

■県政全般に関する要望

○常に開かれた県政の姿勢に期待します。いつまでも住みやすい、暮らしやすい県であってほしいので、県民の目線に立って県政を行ってほしいです。（女性、50代、千葉地域）

■道路を整備する

○地域により格差がありますが、幹線・準幹線道路の安全対策として、歩道の整備（設置）を進めて、弱者が安全に通行できるようにお願いしたい。（男性、65歳以上、山武地域）

■新型コロナウイルス感染症対策について

○コロナが続く中、病院関係で働く方への手当てを充実させてあげてほしいです。（男性、40代、東葛飾地域）

■災害から県民を守る

○災害被害は大小に関わらず起こる前に対策できるところから対処してほしいです。（女性、40代、君津地域）

■県政の情報発信について

○県政に関する情報を積極的に得ようとしたことは無かったが、広報紙や広報番組の存在を今回の世論調査で知ることができ、もっと千葉に興味を持とうと思った。広報紙や広報番組の存在をもっと広めていけばいいと思った。（男性、40代、印旛地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○北総線の運賃を下げたい（東京に出られない）。（男性、65歳以上、印旛地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○保育士の人数を増やす努力してください！！ 近所の保育園に入れない！！ 同じ地区なのにおかしい！！（女性、30代、安房地域）

■学校教育を充実する

○将来の優秀な人材を育てるため、教育を充実させるべきだと思います。もっと教育についての財源を確保しなければならないのではないかと常々感じています。よろしくお願いします。（女性、60～64歳、山武地域）